

農業振興部門
全国水土里ネット会長賞

福島県
中朝日地区

只見町土地改良区

水田の汎用化を機に地区外の法人が参入
ブランドトマト栽培で地域に雇用と所得を創出

位置図



農地の76%を担い手に面的集積
効率化により米の生産コストを削減

福島県の西南に位置する只見町。その中央部にある中朝日地区は、第一級河川の伊南川と黒谷川に沿って広がる水田地帯です。

この地区は、昭和30年代に整備した5a区画の狭いほ場が中心で、さらには山からの湧水による湿田も多く、転作作物の栽培にも支障が出ていました。



連坦化したトマトハウス

そこで、平成22年から農業農村基盤整備事業を実施し、平均28aの区画へ拡大。平成27年には農地中間管理事業も活用し、面的集積を進めました。その結果、農地の88%を地区内の担い手に集

積。このうち76%が面的集積であることから、移動時のロスなどを省いた効率的な営農が実現しました。

大区画化により大型機械の導入も進み、10a当たりの生産コストは事業前に比べて約31%削減。60kg当たりの米の生産費も約25%削減され、国が目標として掲げる9600円を下回る8473円まで下がりました。

また、湧水処理の工事も行なったことで、水田の汎用化が可能に。ちょうど地区外の法人がトマトの施設栽培ができる農地を探していたため、中朝日地区と法人の意向が合致し、本地区に園芸団地を作った新たな担い手として参入することが決まりました。

法人が若者を正社員として雇用
もち米を使った6次産業化も推進

この「(株)ライズサプールの」は、農地中間管理事業で借り受けた1.2haの農地で、ブランドトマトの「南郷トマト」を栽培しています。水稲と合わせた経営面積は、現在30haに迫る勢いで拡大。収穫作業には、面的集積による効率化で生まれた余剰労働力を活用しています。また、南郷トマトの栽培に魅力を感じた20代と30代の若者4名を正社員として、その他6名をパートタイマーとして雇用するなど、地域住民の雇用と所



「南郷トマト」として
ブランド化

得の創出に貢献しています。さらに、国の経営体育成支援事業を活用し、中朝日地区の集落内に加工場と直売所を建設。加工場では町の伝統食品である「凍みもち」の加工販売に加え、今後は「生もち」などの販売も計画し、もち米を使った6次産業化も推進中です。

地区内には、ライズサプールの他に家族経営による3名の担い手がいますが、こちらも面的集積によって農作業の省力化と効率的な農業経営を実現し、それがさらなる規模拡大を目指しています。今後も周辺地域の関係者と連携を進めながら、地区内に限らず幅広い人材と協力し、若い新規就農者の参入を促して、地域の後継者を育成していきます。

事業概要

事業主体	福島県		
事業名	農業農村基盤整備事業 (農地整備事業(経営体育成型))		
工期	平成22年～平成28年		
受益面積	25.1ha	受益戸数	112戸
標準区画規模	事業実施前	5a → 完了後	28a
1ha以上の区画合計面積	-		
主要工事	区画整理工、道路工、用水路工、排水路工、客土工		
関係土地改良区	只見町土地改良区		
関係市町村	南会津郡只見町		